

第一部 総則

1. 総則

1.1. 適用

本競技規則は、国際箸学会が所管する箸りんぴっく競技会（以下「競技会」）に適用される。

1.2. 発行と改訂

本競技規則は、国際箸学会会長の選任する競技規則策定委員が案文を作成し国際箸学会会長が発行する。

国際箸学会理事会にて改訂が必要と認められた場合、国際箸学会会長の選任する競技規則改訂委員が案文を作成し、国際箸学会会長が発行する。

2. 資格

国際箸学会が所管する競技会に参加しようとする者は、競技会の実施要項に従い登録した競技者でなければならない。

3. 競技

3.1. 競技種目

- ①箸ピー1分ゲーム
- ②箸ピー駅伝ゲーム

3.2. 種別

①種別（年齢別クラス）は、次のように分けられる。

- ・成年
- ・少年
- ・マスターズ

②種別を限定した競技会を開催することができる。

③競技会が開催される年の1月1日以降に15歳の誕生日を迎える競技者は、少年の部で競技に参加することができる。

④競技会が開催される年の1月1日以前に50歳の誕生日を迎えた競技者は、マスターズの部で競技に参加することができる。

⑤少年およびマスターズの部の競技者は、自分の判断に従い成年の部で競技に参加することができる。

⑥競技会は種別を分ける事なく、あるいはさらに細分化した区分を採用することができる。

4. 競技会

競技会は次の2種類とする。

- ・公認競技会

国際箸学会箸りんぴっく競技規則に則り、事前申請により公認された競技会。開催後に報告書を提出し、記録は公認記録として保管され公表する。公認記録は国際箸学会にて集計し、年間優秀選手の表彰、世界記録認定を行う。

- ・記録会（非公認競技会）

国際箸学会箸りんぴっく競技規則に準じて開催され、記録会開催後の申請により認められた非公認競技会。申請された記録は、参考記録として保管され公表する。

上記の公認競技会および記録会においては、公認審判員が審判業務を行う。公認審判員は国際箸学会指定の講習会を受講し、国際箸学会会長により認定された者とする。

4.1. 公認競技会

- ・主催者が公認競技会申請書を開催月の1ヶ月前までに国際箸学会に提出し承認され、開催後1ヶ月以内に報告書を国際箸学会に提出し成立する。但し、国際箸学会主催の公認競技会は随時開催できる。

4.1.1. 競技役員

①公認競技会では、次の競技役員を置く。審判員は自らが担当する競技に競技者として参加する事ができない。

- | | | |
|--------|------|------------|
| ・競技委員長 | 1名 | 国際箸学会正会員 |
| ・総務 | 1名 | 国際箸学会正会員 |
| ・審判長 | 1名 | 国際箸学会公認審判員 |
| ・審判員 | 必要人数 | 国際箸学会公認審判員 |

②競技委員長の任務は次のとおりとする。

- ・競技会の体制を整備し、国際箸学会へ公認申請を行う。
- ・競技会を統括する
- ・競技会開催結果を国際箸学会へ報告する。

③総務の任務は次のとおりとする。

- ・競技会の準備、競技日程および実施要項を作成する。
- ・競技委員長を補佐し、審判員業務以外の進行状況を把握し管理する。

④審判長の任務は次のとおりとする。

- ・審判員を統括し、競技規則を遵守させる。
- ・競技会におけるすべての紛争や抗議についての最終決定を行う。
- ・競技場の設備、用具、競技の実施、記録等の競技に関する事項を総括する。
- ・審判員の任務遂行状況を把握し、必要な時はその代行者を指名する。

⑤審判員の任務は次のとおりとする。

- ・競技場のレイアウト、机、椅子、用具が適正である事。ピースが適正な形状であり規定の数量である事。その他の必要な設備等を確認する。
- ・競技の開始前、および競技中随時に用具を検査する。
- ・競技の実施を管理する。
- ・得点記録を確認し管理する。
- ・発生した抗議および異議の申立を処理する。
- ・重大な事故の発生、その他の突発事態により、必要に応じて競技を中断する。

4.1.2. 用具の検査

箸リンピックで使用する用具はつぎの通りである。

- ① 箸 国際箸学会指定の箸であること。
 - ② 器 国際箸学会指定の器であること。
 - ③ ピース 偏りのない殻付きピーナッツ（2個入り）であること。
- ・競技会前日までに主催者が用意した用具の検査を審判員が行うように日程を作成する。

4.1.3. 練習

- ・競技会では競技者が競技会場で練習する時間を設けることができる。

4.1.4. 公認の取り消し

次の項目に該当した場合、国際箸学会は公認を取り消す事ができる。

- ・競技規則を遵守しなかった、または遵守できないことが明確な場合。
- ・重大な事故の発生、その他の突発事態により、公認競技会を開催するべきでないと判断した場合。
- ・競技者に不利益が生じると判断した場合。

4.2. 記録会

- ・記録会申請書を開催後1ヶ月以内に提出し承認され成立する。

4.2.1. 競技役員

①公式記録会では、次の役員を置く。審判員は自らが担当する競技に参加する事ができない。

- | | | |
|------|------|------------|
| ・主催者 | 1名 | 国際箸学会正会員 |
| ・審判員 | 必要人数 | 国際箸学会公認審判員 |

②主催者の任務は次のとおりとする。

- ・記録会を統括する
- ・審判員を統括し、競技規則を遵守させる。
- ・開催結果を公式記録会申請書により国際箸学会へ提出する。

③審判員の任務は次のとおりとする。

- ・競技場のレイアウト、机、椅子、用具が適正である事。ピースが適正な形状であり規定の数量である事。その他の必要な設備等を確認する。

- ・ 競技の開始前、および競技中随時に用具を検査する。
- ・ 競技の実施を管理し、競技規則を遵守させる。
- ・ 得点記録を確認し管理する。

5. 記録の管理と公表

5.1. 記録の種類

国際箸学会は次の記録を管理する。

- ・ 公認競技会で記録された公認記録。
- ・ 記録会で記録された参考記録。

5.2. 公認記録の取り扱い

- ・ 公認記録は国際箸学会ホームページで公開する。
- ・ 各クラスの年間ベスト10を公表し、年間総合チャンピオンを決めチャンピオン証を交付する。
- ・ 公認記録が従来最高記録を上回った場合は世界記録認定書を交付する。

5.3. 参考記録の取り扱い

- ・ 記録を参考記録としてホームページで公開する。
- ・ 公認大会への挑戦のための励みになるよう、また箸りんぴっくの裾野を広げるための参考記録として公表し活性化のために活用する。

第二部 箸ピー1分ゲーム

1. 概要

1分ゲームは競技者の前に二つの器を置き、片方の器に50個のピースを入れ、箸で挟んで1分間に何個のピースを器から器へ移動できるかを競うゲームである。

箸を持つ手を替え、1分競技を左右の持ち手各1回行い、左右の得点の合計を競う。

2. 用具

①器と箸は、国際箸学会公認のものとする。

②ピースは、偏りのない殻付きピーナッツ（2個入り）50個とする。

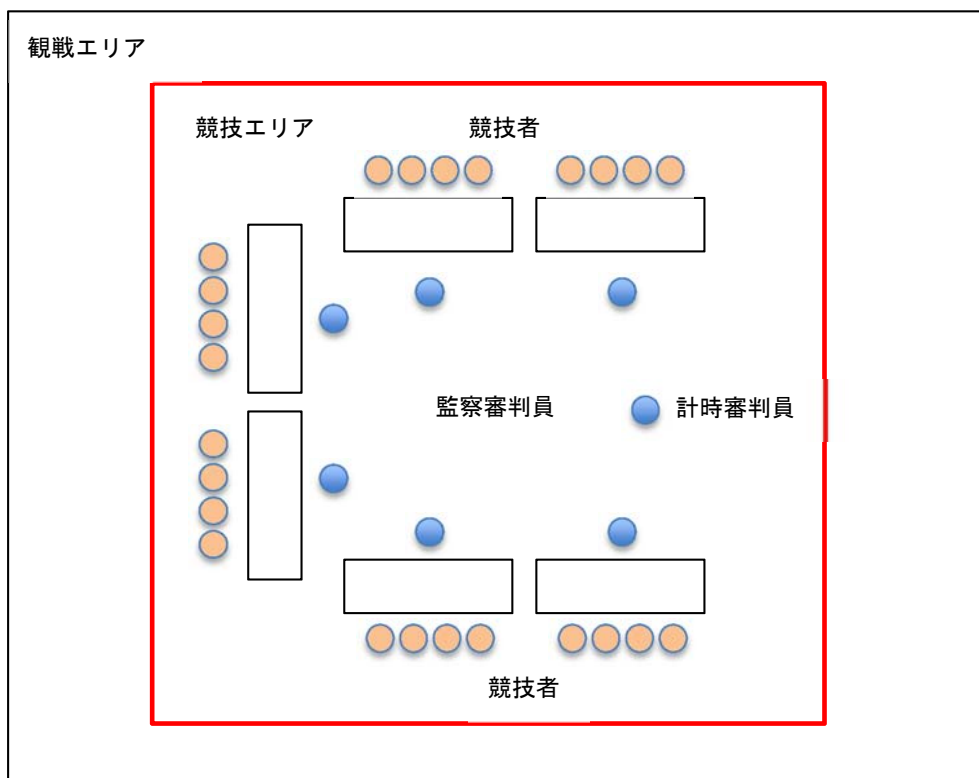
3. 競技場のレイアウト

3.1. 競技単位

- ・競技者4名に対し監察審判員1名を配置し、これを1ユニットとする。
- ・計時審判員1名に対し最大6ユニット（競技者24名まで）を配置し、これを競技単位とする。
- ・競技者間には十分な距離を置く。
- ・複数競技単位による開催は審判長の決定による。

3.2. 競技エリア

- ・競技会場には競技エリアを設置し、競技者と審判員以外が競技中に立ち入らないようにする。（図：競技エリアおよび配置例）



4. 競技

競技は次のとおり行う。

①競技者は、審判員の誘導に従い指定された位置につき、個表が自らの個表であることを確認する。

- ・個表が自らのものでない場合は、直ちに監察審判員へ申し出る。
- ・競技者は椅子に座る場合、座席の高さを調整するクッション等を使用できる。

②監察審判員は競技者から向かって、黒の器を左に、赤の器を右に、左右一対に置く。

③ピースは、監察審判員が50個を数え、競技者から向かって右の赤の器にピースが山を作らず、整列しないように入れる。

④監察審判員は、競技者に箱の位置を変更する意思があるか確認し、競技者は箱の位置を変更できる。

- ・他の競技者に影響する位置であってはならない。
- ・箱の左右1対の位置関係を変更してはならない
- ・箱は机の端から10センチメートル以上離さなければならない。

⑤監察審判員は次を確認し、手を上げるまたは旗を上げ、計時審判員へ準備完了を伝える。

- ・競技者が指定の位置に着いていること。
- ・箱の位置、ピースが正しいこと。
- ・用具の検査が完了していること。
- ・競技者および審判員以外の者が競技エリアに入っていないこと。

⑥計時審判員は監察審判員の準備完了を確認し、合図をもって競技を開始する。

- ・開始30秒前 計時審判員は「30秒前、位置に付いて」の号令を発する。
競技者は膝の上に手を置く。
- ・開始10秒前 計時審判員は「用意」の号令を発する。
競技者は箸を持つ。
- ・開始5秒前 計時審判員は「5 4 3 2 1」と、開始までの秒数を読み上げる。
- ・競技開始 計時審判員の笛の合図で競技を開始する。

⑦競技者は、箸以外でピースに触れてはならない。

競技者は、ピースを箸で挟んで移動しなければならない。

競技者は、器を持ち上げて机から離してはならない。

競技者は、器の赤黒左右一対の位置関係を変更してはならない。

⑧ピースを器の外に落とした場合は、その都度、ピースを器へ移動しなければならない。

⑨箸がピースに刺さり競技を続けることができなくなった場合、競技者はピースの

刺さった箸を高く上げて審判員に競技続行が不可能であることを伝え、補充競技を申請できる。

- ・ 監察審判員は競技者の申請が正しいことを確認し、計時審判員及び審判長へ補充競技申請があった事を伝える。

- ・ 計時審判員は全競技者に対し、競技中に補充競技の申請があり、1分ゲームの最終に補充競技を行うことを伝え、実施する。

⑩ 50個のピースを開始時に空の器に移動し、なお競技時間がある場合は、その時点で空の器へピースを移動し得点を得ることができる。50個のピースを移動しなお競技時間がある場合は、同様にその時点で空の器へピースを移動し得点を得ることができる。

⑪ 計時審判員は時間経過を伝え、終了の号令を発する。

- ・ 終了30秒前 計時審判員は「30秒前」を宣する。

- ・ 終了10秒前 計時審判員は「10秒前」を宣する。

- ・ 終了5秒前 計時審判員は「5 4 3 2 1」と、終了までの秒数を読み上げる。

- ・ 競技終了 計時審判員の笛の合図で競技を終了する。

競技者は、箸を置き、手を膝の上に置く。

⑫ 各競技者の得点の処理を行う。

- ・ 競技者がピースを数え得点を個表に記入する。

- ・ 監察審判員は得点を確認しその証に署名する。

- ・ 競技者は得点を確認しその証に署名をする。

⑬ 監察審判員は競技者から向かって、赤の器を左に黒の器を右に置き、ピース50個を数え、競技者から向かって左の赤の器にピースが山を作らず、整列しないように入れる。

⑭ 箸の持ち手を左に変え2回目の競技を④から⑫の手順に従い行う。

第三部 箸ピー駅伝ゲーム

1. 概要

箸ピー駅伝は5名でチームを編成する。第二競技者以降の前に1個の空いた器を置き、第一競技者の前には2つの器を置く。第一競技者がピース50個を器からもう片方の器に移動したら、第二競技者以降にピース50個入りの器を渡す。最終第五競技者がピースの移動を終了するまでにかかった時間を計測し順位を競う。

2. 用具

①器と箸は、国際箸学会公認のものとする。

②ピースは、偏りのない殻付きピーナッツ（2個入り）50個とする。

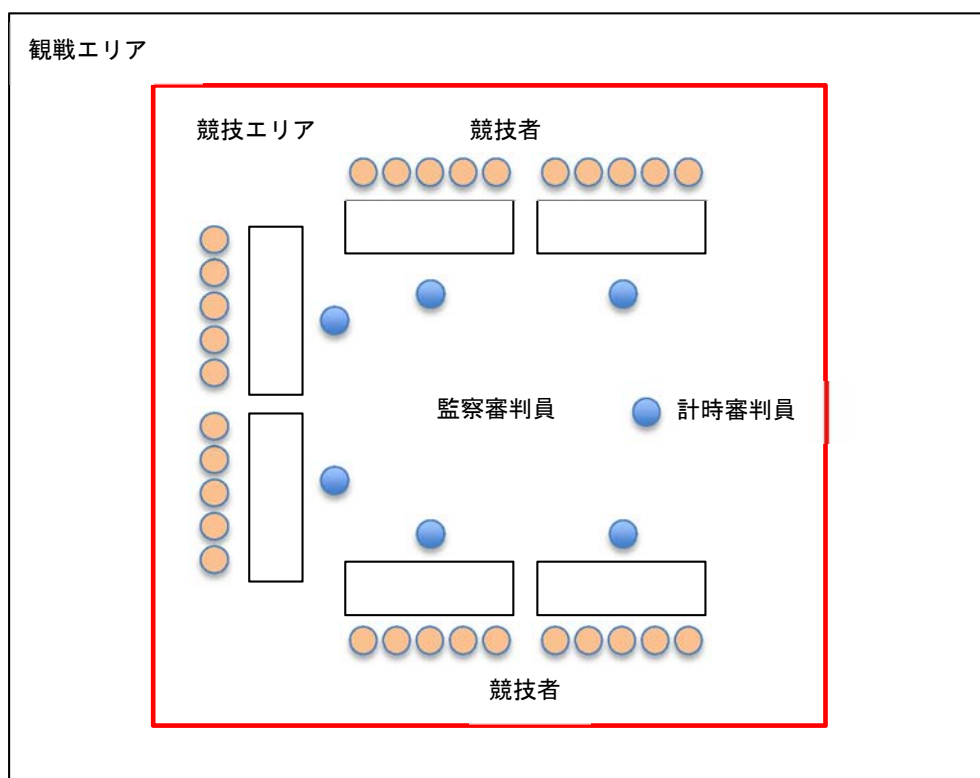
3. 競技場のレイアウト

3.1. 競技単位

- ・1チーム（競技者5名）に対し監察審判員1名（チーム計時を行う）を配置し、これを1ユニットとする。
- ・計時審判員1名に対し最大6ユニット（6チームまで）を配置し、これを競技単位とする。
- ・競技者および競技チーム間には十分な距離を置く。
- ・複数競技単位による開催は審判長の決定による。

3.2. 競技エリア

- ・競技会場には競技エリアを設置し、競技者と審判員以外が競技中に立ち入らないようにする。（図：競技エリアおよび配置例）



4. 競技

競技は次のとおり行う。

①競技チームは、審判員の誘導に従い指定された位置につき、個表が自チームの個表であることを確認する。

- ・個表が自チームのものでない場合は、直ちに監察審判員へ申し出る。
- ・競技者は椅子に座る場合、座席の高さを調整するクッション等を使用できる。

②監察審判員は、器を第一競技者の前に左右一対に置き、第二競技者以降には各1個の器を配置する。

③ピースは、監察審判員が50個を数え第一競技者から向かって右の赤の器にピースが山を作らず、整列しないように入れる。

④監察審判員は、競技者に箱の位置を変更する意思があるか確認し、競技者は箱の位置を変更できる。

- ・他の競技者に影響する位置であってはならない。
- ・箱の左右1対の位置関係を変更してはならない
- ・箱は机の端から10センチメートル以上離さなければならない。

⑤監察審判員は次を確認し、手を上げるまたは旗を上げ、計時審判員へ準備完了を伝える。

- ・競技者が指定の位置に着いていること。
- ・箱の位置、ピースが正しいこと。
- ・用具の検査が完了していること。
- ・競技者および審判員以外の者が競技エリアに入っていないこと。

⑥計時審判員は監察審判員の準備完了を確認し、合図をもって競技を開始する。

- ・開始30秒前 計時審判員は「30秒前、位置に付いて」の号令を発する。
競技者は膝の上に手を置く。
- ・開始10秒前 計時審判員は「用意」の号令を発する。
競技者は箸を持つ。
- ・開始5秒前 計時審判員は「5 4 3 2 1」と、開始までの秒数を読み上げる。
- ・競技開始 計時審判員の笛の合図で競技を開始する。

⑦競技者は、箸以外でピースに触れてはならない。

競技者は、ピースを箸で挟んで移動しなければならない。

競技者は、次の競技者へ器を渡す場合を除き、器を持ち上げて机から離してはならない。

⑧ピースを器の外に落とした場合は、その都度、ピースを器へ移動しなければならない。

⑨競技者は、50個のピースを移動し終わった時点で次の競技者の前にある器の競

技者から見て右側または左側にピースの入った器を移動する。

⑩ピースの移動を完了した競技者は、箸を置き、手を膝の上に置く。

⑪箸がピースに刺さり競技を続けることができなくなった場合、競技者はピースの刺さった箸を高く上げて審判員に競技続行が不可能であることを伝え、補充競技を申請できる。

・ 監察審判員は競技者の申請が正しいことを確認し、計時審判員及び審判長へ補充競技申請があった事を伝える。

・ 計時審判員は全競技チームに対し、競技中に補充競技の申請があり、駅伝ゲームの最終に補充競技を行うことを伝え、実施する。

⑫監察審判員は第五競技者が50個のピースを移動完了した時点で時間計測を終了し、手または旗を上げて担当チームの競技終了を宣する。

⑬監察審判員は、ピース50個を数えピースが最終競技者まで移動した事を確認し得点を処理する。

・ 監察審判員が計測時間を個表に記入する。

・ 競技チーム代表者は計測時間を確認しその証に署名をする。

・ 監察審判員は代表者の署名を確認しその証に署名する。

以上の通り、競技規則を改定し発行する。

2016年3月31日改定

国際箸学会 会長 小宮山栄

箸りんぴっく競技2016年3月改定 Q&A

Q 自分の箸を使えますか？

A 使えません。国際箸学会公認の箸を使います。

Q 片方の器を持ち上げてピースを移動することはできますか？

A できません。失格になります。器を持ち上げることができるのは、駅伝競技で次の競技者へ器を移動する時だけです。

Q 器の外にピースを落としたら元の器に戻すのですか？

A 元の器へ戻す必要はありませんが、そのままゲームを続けると失格になります。箸を使って先の器へ移動し、ゲームを続けることができます。

Q 箸を持たない手はどこにも触れてはいけないのですか？

A 器に触れる事、机に触れる事はできます。ピースには箸以外で触れる事は出来ません。箸を持たない手にピースを当てるなどは手に触れたことになり失格となります。

Q ピースが箸に刺さってしまってゲームを続けられないときはどうするのですか？

A ピースの刺さった箸を高く上げ、ゲームのやり直しを申請することができます。
ご自分で器の縁などを使い、ピースに手を触れずに抜き取り、ゲームを続けることもできます。

Q 一遍に2個のピースを挟んで移動したら1個は元の器へ戻すのですか？

A 戻す必要はありません。そのままゲームを続けられます。

Q 審判が時間計測を誤ったらどうなるのですか？

A 再試合になります。